は亜種 (4) に帰せられるが、亜種名はなるべく使わぬ方がよい。勿論日本産のうち (1) 又は (2) の色相のものが散発的に見出されてもこれを亜種とはみとめられない。最近黒田 (51) が *R. tanezumi* に同定した 1 標本の記載は *R. rattus* でない証拠は何もないし、かかる野鼠が個体群として東北地方の一角に存在するとは考えられない。*R. norvegicus* は *R. rattus* より交流がはげしいので世界的に確認された亜種はない。日本の家屋性甘日鼠も *M. musculus* の 1 亜種とみる方が妥当であるが、その亜種名はよくわからない。家鼠個体群が野外を棲息地とした場合これを野鼠と呼ぶべきではなく、野外個体群というのが妥当である。〔高知女子大動物〕

アブラコウモリのハエに依る飼育 斎藤 豊

Saito, Y.: Studies on the rearing of bats, *Pipistrellus abramus*, by flies

アブラコウモリを実験動物として取扱うには実験室内に於ける人工飼育が不可欠なる要項であるので、前回は 1 種の混合スリエに依り或程度その目的が達せられることを述べたが、今回はガラスのハエトリビンにて多種多量のハエ類を屋外にて採集し、之と水とでその飼育を試み更に良結果を得たが、その成績は次の如くであつた。

1. 春期捕獲コウモリはその飼育が不可能である。
2. 夏期のものはその 80~100% に飼育可能である。
3. 初秋及び中秋捕獲せしものは夫々 75% 及び 20% に於いて飼育可能であつた。
4. 食欲は夏期最も旺盛で向秋に従い減少し 12°C 以下では食餌を摂取しない。
5. 飼育に当り体重は秋 11 月最高に達し冬期間は冬眠に移行し漸次その減少を来す。

〔新大細菌〕

昆虫の殺虫剤に対する反応時間に関する研究 金光正次・長谷川 恩

Kanemitsu, M. & Hasegawa, M.:
Studies on the reaction time of
insects to various insecticides

〔札幌医大衛生〕

宮城県桃生郡宮戸村(松島湾宮戸島)における衛生害虫調査 その 2, 蠅の棲息状況特に便所並びに肥料溜の場合 加藤陸奥雄・渡辺清綱

Kato, M. & Watanabe, K.: Research works on insects of medical importance at Miyato Isl., Matsushima Bay, Miyagi Prefecture II Larval habitats of flies special reference to toilet pool and cess pool

1953 年 6 月から 1954 年 2 月までの間、毎月末松島湾口宮戸島の蠅の幼虫の棲息状態を調査し、便池並びに肥料溜における蠅の生態について興味ある結果を得た。

1. 肥料溜は蠅の第一次的な発生源とはならないようである。肥料溜に棲息する蠅の幼虫は、もつぱら第一次発生源と見られる便池において発生したもので、単に持ちこみによるものと考えられ、従つて肥料溜はいわば第二次発生源といった性格をもつものと思われる。
2. 農漁村における便池は相当に大きく従つて尿尿は便池で古いものから新しいものへの一つの傾斜構造をかたち造っている。この構造に伴つてウジの棲み分けがみられる。
3. 上記と同様の現象が肥料溜にもみられる。即ち分解度の少ない肥料溜においてはウジは十分に生育しているが、分解の進むに従つて、ウジの生育は困難となつて死亡個体を生じ、液化すると全く生育不能となる。
4. このような現象と指標として測定した pH との間に密接な関係がある。pH が 7 乃至それよりわずかに多い間はウジは生育するが、8 前後になると死亡する。液化すると pH は再び 7 に近づくが、ウジの生育はみられない。この本質については更に追究の必要がある。
5. 一つの肥料溜においても、その層状構造の点で、上にのべたと全く同じような現象がみとめられる。

〔東北大生物・塩釜保健所〕

京都地方の蠅の研究〔VI〕昭和 28 年度に於ける蠅の季節的消長 渡辺 清

Watanabe, K.: Study on the flies in Kyoto (VI) Seasonal prevalence of flies during 1953

採集方法：鼠の屍体を誘引物とせる金網製トラップ。
採集場所：京都府立医大校庭。採集日時：自 1953 年 1 月、至 1953 年 12 月。

結果 1953 年度に於て捕獲せし総蠅数は 16,388 匹、こ

の間の消長を前年度と比較すれば下記の如し, [I] 属別消長 (イ) 捕獲開始期が 1952 年より早かつた属 *Fannia*, *Muscina*, *Calliphorini*, *Lucilini*, *Chrysomyini*, (ロ) 捕獲開始期が同年同時期の属 *Ophyra*, *Sarcophagidae*, (ハ) 最多捕獲期が 1952 年より早かつた属 *Lucilini*, *Chrysomyini*, *Sarcophagidae*, (ニ) 最多捕獲期が同年同時期の属 *Fannia*, *Ophyra*, *Muscina*, *Calliphorini*, (ホ) 最終捕獲期が 1952 年より早かつた属 *Fannia* を除き全属. (ヘ) 最終捕獲期が 1952 年より遅かつた属 *Fannia*. [II] 種別消長. (イ) 捕獲開始期が 1952 年より早かつた種 *F. canicularis*, *F. scalaris*, *O. nigra*, *M. stabulans*, *C. grahami*, *C. vomitoria*, *L. illustris*, *L. ampullacea*, *Chry. pinguis*, *S. melanura*, (ロ) 捕獲開始期が 2 年間同時期の種 *O. leucostoma*, *T. calliphoroides*, *L. sericata*, *L. cuprina*, *L. caesar*, *S. midera*, (ハ) 捕獲開始期が 1952 年より遅かつた種 *H. liggrimens*, *S. similis*, *S. peregrina*, *S. albiceps*, (ニ) 最多捕獲期が 1952 年より早かつた種 *F. canicularis*, *O. nigra*, *L. sericata*, *L. cuprina*, *L. illustris*, *L. caesar*, *Chry. pinguis*, *S. misera*, *S. peregrina*, *S. melanura*, (ホ) 最多捕獲期が 2 年間同時期の種 *F. scalaris*, *O. leucostoma*, *M. stabulans*, *C. grahami*, (ヘ) 最多捕獲期が 1952 年より遅かつた種 *C. vomitoria*, *T. calliphoroides*, *L. ampullacea*, *H. liggrimens*, *S. similis*, *S. albiceps*, (ト) 最終捕獲期が 1952 年より早かつた種 *O. leucostoma*, *O. nigra*, *M. stabulans*, *C. grahami*, *T. calliphoroides*, *L. sericata*, *L. cuprina*, *L. caesar*, *Chry. pinguis*, *S. misera*, *S. similis*, *S. peregrina*, *S. melanura*, (チ) 最終捕獲期が 2 年間同時期の種 *C. vomitoria*, *L. illustris*, *L. ampullacea*, *H. liggrimens*, (リ) 最終捕獲期が 1952 年より遅かつた種 *F. canicularis*, *F. scalaris*, *S. albiceps*, 以上の如く年度により各属・各種の消長には僅かに変動あり特に *L. caesar*, *L. ampullacea*, *Chry. pinguis*. の最多捕獲期の変動が甚だしかつたが, 此等の原因に就いては未だ結論を出すに到っていない. 猶本年も引き続き採集を行い検討する予定である.

[京都府立医大医動物]

蛔虫卵攝取蠅の排糞排卵の時間的観察

鍵岡 勉

Kagioka, T.: Some periodic observations on the excretion of housefly eating *Ascaris*-egg

さきに蛔虫の蠅体内通過卵を人工培養し, 無処置卵に比し發育の遅退を見たが, 今回は此の点を更に例数を加えて観察を深めた. 即ち前同様各例毎に对照卵と同一豚蛔虫の子宮内より採り出した受精卵を用い, バス氏浮游法を以て前後二回処置して可及的に異常卵を除き 2% フォルマリン液に入れ, 30°C の孵卵器中にて培養した. 尚今回は摂取 4 時間後肛門部を軽く圧して排糞せしめた.

結果: 第 1 例卵数 6 個. 5 日目 5 分裂球出現, 7 日目对照卵同様多分裂球出現, 9 日目仔虫形成後期出現, 12 日目全卵仔虫完成し, 中 3 個仔虫の活動あり. 無処置对照卵は 5 日目已に 6 分裂球出現, 9 日目仔虫形成期出現, 12 日目全卵に仔虫活動を見た. 第 2 例卵数 24 個. 3 日目对照卵同様 2 分裂球出現, 6 日目 20 個の 4 分裂球出現, 8 日目对照同様 8 分裂球出現, 10 日目桑堪期出現, 13 日目全卵仔虫形成期, 16 日目对照同様仔虫出現, 20 日目全卵仔虫完成した. 对照は 6 日目已に全卵 4 分裂球, 10 日目已に仔虫形成後期の出現, 18 日目全卵仔虫完成した. 第 3 例卵数 21 個. 3 日目 2 分裂球出現, 6 日目 5 分裂球出現, 8 日目, 10 日目は对照と略々比較差なく, 13 日目仔虫形成期出現, 16 日目 10 個の仔虫完成, 20 日目全卵仔虫完成した. 对照は 6 日目全卵 4 分裂球, 13 日目仔虫形成後期出現, 16 日目 12 個の仔虫出現, 18 日目全卵仔虫完成した. 第 4 例卵数 16 個. 4 日目, 7 日目は对照と比較差なく, 9 日目 9 分裂球出現, 11 日目仔虫完成 6 個, 21 日目 1 個に仔虫活動を見た. 对照は 5 日目已に 3 分裂球出現, 9 日目已に多分裂球出現, 11 日目仔虫形成期 4 個, 15 日目仔虫 5 個, 19 日目仔虫完成 10 個, 21 日目 3 個に仔虫活動を見た. 第 5 例卵数 27 個. 5 日目に 2 分裂球出現, 7 日目 5 分裂出現, 9 日目 8 分裂球出現, 11 日目多分裂球出現, 15 日目仔虫形成後期出現, 16 日目仔虫完成 1 個, 21 日 3 個仔虫完成せり. 对照は 4 日目已に 3 分裂球出現, 7 日目 6 分裂球出現, 9 日目多分裂球出現, 11 日目已に仔虫形成期出現, 15 日目已に仔虫出現, 19 日目殆んど仔虫完成せり. 以上の観察により前回同様蠅体内通過卵に比し發育の遅退する事を知つた.

[大阪市立医大医]